

国立病院機構和歌山病院

津波対策へ新病棟完成

【美浜】

県内唯一の結核病棟を持つ美浜町和田の国立病院機構和歌山病院(南方良章院長)の新病棟が完成し、10日から使用される。敷地の海抜は8・5メートルで、大地震時は高さ13メートルの津波が想定されるため、1階を津波が通り抜けるように高さ5メートルの柱だけの構造としたほか、屋上計3300平方メートルを地域住民も含めた計1600人分の避難場所にあてる。

病床数は重症心身障害者160床を含む一

般295、結核15の計310床で、総事業費約38億3000万円。鉄筋コンクリート5階建て、延べ床面積約1万4000平方メートルで、2と4階が病室、5階が療育訓練室になっている。7月には新病棟横にヘリポートが完成する予定。

3月28日にあった完成式典で、南方院長は「呼吸器内科・外科を一体化させた呼吸器センターや結核病棟を県内で唯一有している。新病棟は万全の災害対策構造で、地域の災害

10日から 地域住民の避難場所にも



対策・医療安全ゾーンした。の形成ができる」と話

【山本芳博】

完成した新病棟。津波対策のため1階部分は柱のみの構造となっている

—美浜町和田の国立病院機構和歌山病院で